

精神疾患に関する教育啓発プログラムの開発

渡部雄一郎・吉井 初美・北村 秀明・赤澤 宏平

1. はじめに

災害により被災者の間では、不眠、不安、抑うつなど多くの精神症状が比較的高い頻度で認められ、心的外傷後ストレス障害やうつ病などの精神疾患が生じることもある。しかし、メンタルヘルスケア専門家の関与が必要と思われるケースであっても、援助希求行動につながらないことはしばしば経験される。この理由として、精神疾患に対する知識が乏しいことなどが考えられる。そこで、今回われわれは、精神疾患に対する知識の増加を目的とした教育啓発プログラムを開発し、その効果について調査した。

2. 方法

2. 1 対象

中学生・高校生の親2,690人（男性1,381人、女性1,309人；平均年齢 45.9 ± 4.7 歳）を対象とした。

2. 2 調査

対象者に対して、統合失調症に関する基本的知識について問う問題に正否で回答を求めた。また、種々の症状・行動が統合失調症によるものか否か判別を求めた。

2. 3 教育啓発プログラム

統合失調症の基本的知識に関するナレーション付きのスライド12枚をウェブにより視聴する教育啓発プログラム（13分間）を開発し、対象者はこれを視聴した。上記の調査を教育啓発プログラムの視聴1週間後に再び実施し、プログラムの効果を検証した。

3. 結果

教育啓発プログラムの実施により、統合失調症に関する基礎知識の正答率は増加し、症状・行動の判別率も増加した。

4. まとめ

われわれが開発した統合失調症の基本的知識に関する教育啓発プログラムは、統合失調症に関する基礎知識の増加のみならず、種々の症状・行動が統合失調症によるものか否かの判別率の向上にも効果を有することが明らかとなった¹⁾。

今後は、精神疾患へのスティグマ²⁾や援助希求行動に関するこのプログラムの効果を検証していく予

定である.

参考文献

- 1) Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Nan Z, Akazawa K: Stigma toward schizophrenia among parents of junior and senior high school students in Japan. BMC Res Notes 4: 558, 2011.
- 2) Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Chen J, Akazawa K: Effect of an education program on improving knowledge of schizophrenia among parents of junior and senior high school students in Japan. BMC Public Health 11: 323, 2011.